



12月3日 に行われたコミュニティビジネス起業コースのプレゼンテーションのようす。受講生が起業への意気込みをパソコンを使用して発表しました

昔はおじいちゃん、おばあちゃんや地域の人など、サポートする人が周りにいっぱいいました。今は、他人に迷惑をかけるという意識があるのかもしれないけれど、昔の人だって、みんな自立してやっていたわけではないんです。今の若い人たちは、自分で完結しよう、自分の責任でやるうということにこだわり過ぎているんじゃないでしょうか。私も手伝えることはやるから、私のことも手伝ってという気持ちの社会が大事だと思います。

宮下 健康づくりサポーター養成コースは、西武文理大学を会場に授業が行われています。講師の方がバラエティーに富んでいて、とても親近感がある講座です。「皆さんがリーダーになるんですよ」、学んだことを自分の中にしまいこむのではなく、地域に発信して、地域の役に立つのが本当の学習なんです」ということを聞いて、元氣な狭山をつくりたいという思いを強くしました。今は私たちが地域でサポートできるようにと、ゲームや脳トレなどの方法を教わっています。

でも、終わってから地域のサポーターとして本当にやっていけるんだろつかという不安はあるんですね。皆さんの前で一人でゲームを担当することを考えると、とても自信がないんです。市長 地域へのデビューというのは、最初は大変だと思うんです。でも、デビューしちゃえば、いろいろな出会いがあって仲間もできますし、助け合いがあったりするから、意外とそのうち自信がついてきますよ。

江頭 元氣大学の対象は、おおむね16歳以上になっていますが、平日の午前中だと、若い人たちは受講したくてもできないという問題があります。やはり時間帯も考え、若い人たちを呼び込む必要があるのではないかと思います。鈴木 若い人を含め、多くの皆さんに参加していただけるよう、来年度のコミュニティビジネスコースは、開催日時を平日の夜に予定しています。また、新設のコーディネート養成コースも、土曜日に実施するなどの工夫を盛り込んでいます。それから、ボランティアリーダー 学科ですが、相互支援のサポートシステムをつくるというのが、まさにこの学科の目的なんです。受講生自身もサポーターになれるような内容を取り入れて、悩んでいる若いお母さん方をもっと積極的に支援できるように改善していきたいですね。

あと宮下さんが、ご自分が地域のリーダーになれるか不安だとおっしゃっていました。地域に出たときに、授業で教えてくれた先輩たちが現場でも一緒に活動してくれそうですから、大丈夫ですよ。皆さんに期待しているのは、世代を超えて各自が持っている知識、経験を出し合えば、すごい活力になるので、どんどん学びを進めていただきたいと思います。もう一つは、元氣大学が正式にスタートしたときには、受講された経験を活かして運営や授業のサポートをお願いしたいんです。



私はこの活動がうまくいけば新しい公共のモデルになる、行政と市民が役割分担をして地域をつくること、本当の意味で市を活性化させる起爆剤になると思います。そのためにも、元氣大学の修了生が地域活動を始めるときに、市がサポート体制を敷いて、安心して始められる信頼関係を構築しなければいけないと考えています。

## (仮称) 狭山元気大学の歩み

- 平成20年 7月 開設プラン市民検討委員会を設置  
平成21年 2月 開設プランへの提言が示される  
平成21年 9月 パブリックコメントを実施  
平成21年10月 開設プラン市民検討委員会を発展的に解消し、開設に向けての具体的な準備を行う(仮称)狭山元気大学開設準備委員会を設立  
平成21年11月 (仮称)狭山元気大学開設プランの決定・公表  
平成22年 3月 元気大学シンポジウムを開催  
平成22年 6月 試行コース(3コース)を開設
- ・コミュニティビジネス起業コース  
全22回 受講生22名(基礎編14回 22名、実践研究編8回 18名)
  - ・パパ・ママのお助け隊養成コース  
全13回 受講生15名
  - ・健康づくりサポーター養成コース  
全25回 受講生20名
- 平成23年 3月 本格実施コース受講生募集  
上記試行3コースに、次の4コース(いずれも仮称)を加えた全7コース
- ・「食と農」コミュニティビジネス起業コース
  - ・コーディネーター養成コース
  - ・ソーシャルファーム援農コース
  - ・生涯学習案内人養成コース
- 平成23年 5月 本格実施コース開設

## 学びの成果を地域に活かす・人を活かす仕組みづくり 新しい公共としての可能性

江頭 いくらいい考えを持っていても、それを発言をしなければ、何の役にも立たないということを講師の方が話されていました。自分の意思を伝えていくのは非常に重要なことですし、皆さんが大いに発言し、意見を出していけば、市が活性化する源になると思います。元気大学を、できるだけ幅広い人材が集まるような大学にしてほしいと思っています。

田村 子育て中だと、どうしても子どものことが中心になって、自分の意思が隠れてしまいがちだと思っんです。今回、座談会という機会をいただき、試行コースを受講して自分がどう感じたかを見つめ直すことができました。パパ・ママのお助け隊という意味で支援することも大事ですし、親自身が学んだり、成長するという意味でもとても有意義だと思いますので、よ

りたくさんの方が受講して、いい仲間が増えればと思います。宮下 多くの方が、狭山市にずっと住み続けたいと考えていると思います。一緒に元気な狭山をつくりたいという思いを持って入学し、いろいろ学んだ後に、地域でその力を発揮できる仕組みをつくっていたら、安心して入学できるんじゃないでしょうか。目的が分かった上で入学すると、学びぶときの気持ちも違いますし、自身も元気になると思います。

健康づくりということ、高齢の方を相手にすることが主ですから、何年後の自分の姿と重ね合わせていたんですけれども、元気な方をいっぱいつくって、狭山市の医療費が少なくなったらいいなと思っています。

鈴木 江頭さんが、狭山市は自然に恵まれて、子育てに非常にいいところだとおっしゃいました。私は、そのほかに狭山市には素晴らしい人材がいっぱいいると思っっているんです。その人材の能力を新しい公共という形で、狭山市のまちづくりに結集させる役割を、元気大学が担えればいいのかと考えています。

それと、私も教育にずっと携わっているんですけれども、狭山市は子育て支援などにかかり力を入れて

いる自治体なんです。だから皆さんがもっともつと狭山市に自信と誇りを持って、それをさらに元気大学で増幅させて、新しい公共づくりをみんなで進めていければいいなと、何か夢みたいな話ですけども、本当に実感しているんです。

市長 試行コースに一定の評価をいただいたことは私としても満足をしているところなんです。やはり個人で応募するというのは、勇気がいることかもしれませんが、入ってしまえば、多くの友人ができますし、ぜひ積極的に応募していただきたいと思っています。

これからの社会で一番大事なのは、コミュニティです。人を活かすのが元気大学で、その延長にコミュニティの究極があり、これが私の描く狭山市の集大成だと考えています。行政だけで市政を運営している時代ではありませんし、市民総ぐるみで協力し合っつて、すばらしいまちをつくっていくことが何よりも必要だと思っいます。元気大学が新しい時代に即した大人の学び舎になり、元気な狭山市が必ずできると確信しています。

市民の皆さんには、いろいろな夢に向かってチャレンジしていただきたいと思っいます。一緒に元気な狭山をつくりますよ。

本日はありがとうございました。